

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの笑顔が輝く和泉支援学校

～わかり合う、支え合う、育ち合う～

学校が家庭や地域関係機関と連携・協力し、個々の児童生徒のニーズに応じた支援を推進し、児童生徒の自立と社会参加を目標に、小学部～中学部～高等部の一貫性のある教育活動を展開する

(育てる子ども像)

基礎的な体力、知識、技能およびコミュニケーション能力を身につけ、地域の人々と共に社会参加していく力を養う

2 中期的目標

1 インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育のセンター的機能を一本化し強化を図る

【担当：首席、指導教諭、いずみインクルーシブ教育推進センター（新分掌）、教務部、研究部、支援部、ICT教育推進部】

(1) 地域の学校と交流及び共同学習を推進するまた保護者ニーズをくみ居住地校交流を充実させる

(2) 関係機関（教育、医療、福祉、労働等）と協力・連携して地域のインクルーシブ教育システムを推進する

※ (1) 地域の小学校・中学校と交流及び共同学習を推進する

(2) は泉北3市1町教委との「インクルーシブ教育システム推進会議」を定期的で開催する

2 教員の専門性を向上し、教材教具の工夫・活用を進め、児童生徒一人ひとりの障がいの特性や発達状況に応じた教育を充実する

【担当：首席、指導教諭、総務部、研究部、支援部、ICT教育推進部】

(1) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式を活用しやすいものにし、実効性を高める

(2) 自閉症スペクトラムの児童生徒に対する視覚的支援の活用や構造化などを定着させる。そのために外部専門家の巡回による実践的研修を実施するとともに大学との連携をした研究をすすめる

(3) 授業評価活動（授業アンケート、公開授業）を取り入れ、授業力向上を図る

※ (1) (3) は平成27年度までに学校教育自己診断で保護者の肯定的意見90%をめざす

(2) は平成27年まで巡回相談を続け、地域の学校のインクルーシブ教育システム構築に向け地域の教育力向上に努める

またICTを活用した授業を推進し、視覚支援の教材の蓄積を進める

(3) は、経験年数の少ない教員に対する校内支援体制を平成27年度までに確立する

3 自立心と規範意識を養い、社会参加に向けた生きる力の育成を図る

【担当：首席、進路指導部、教務部、生活指導部、通学指導部】

(1) 個々の生徒の希望と状況に基づく進路保障に向け、職場等の新規開拓に取り組む、また高等支援学校も含めた進路先の情報提供を小学部から行う

(2) 平成25年度に作成した和泉支援版キャリアプランニングマトリックスを活用した小学部～中学部～高等部の一貫した指導を実施する

(3) 児童生徒の「生きる力」を育成するため、自主的な取り組みを推進する

※ (1) は中学部・高等部の進路希望の実現100%をめざす

(2) は平成28年度までに実施計画を作成する

(3) は児童会・生徒会活動を通して自立心・自尊意識や公共心を高める（各学部、地域等との交流学习を年間3回実施する）

4 安全安心な学校づくりを推進する

【担当：首席、行事推進部、健康・安全部、生活指導部、通学指導部】

(1) 防犯・防災計画及び危機管理マニュアルを毎年検証し、安全で安心な学校づくりを推進する（作成したマニュアルは、HPに掲載する）

(2) 健康教育（食育を含む）を推進する

(3) 個人情報保護の取り組みを徹底する

※ (1) はより実際に即した訓練を年3回実施する

(2) は児童・生徒への指導の検証をするとともに保健だよりや食育ニュースの充実を図るため毎月1回発行する

(3) は研修を年3回実施する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年5月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 保護者の診断結果 肯定的意見が80%に未だなかった項目 ①学校施設、設備、が適切に整備されている。 ②教材、教具が適切に整備されている。 ③進路について情報提供及び計画的な進路指導ができています。 ④医療機関、子ども家庭センター、地域など関係機関との連携している。 【分析】 ①②については昨年度より低下している。 ①については学校協議会から提言があり、学校長より府教委へ要望した。 ②については本校在学児童生徒の障がい特性の多様化にともない、適切な教材、教具の整備がやや遅れている実態がある。今後はICT機器を整備し、授業でのより積極的な活用をはかる。 ③については80%未満ではあるが、数値は改善している。よりきめこまやかな進路指導を行う。 ④は、ケース会議を活用し、関係校務分掌と外部機関の連携を強化する。</p> <p>2. 教職員の診断結果 肯定的意見が80%に未だなかった項目 教職員間の相談体制、進路指導、学校設備教材教具の整備、緊急時の対応、学校運営の意見反映。 【分析】若年層の増加にともなう校内研修、教員相互の学び合いを進めていく。 進路指導についてはキャリア教育との連関重視が必要である。</p>	<p>第1回 平成27年5月19日(火)10時～12時 学校長より本年度の学校経営計画について説明。特に、重点は ①交流及び共同学習：新しい分掌、組織を立ち上げ取り組んでいく ②ICT教育：地域へも発信していく ③安心安全な学校づくり：防災につてPTAと協力して取り組んでいく 第2回 平成27年11月8日(火)10時～12時 ①進捗状況 ・居住地校交流の実施について市町委員会とルール化した ・和泉市立富秋中学校と授業を一緒に実施する方向で準備している ②学校教育自己診断保護者の結果：施設設備面では厳しい意見が出ている ③委員より進路指導について質問があり回答 ④地元の委員より、情報提供（防犯カメラを設置した） 第3回 平成28年2月10日(水)10時～12時 校長及び担当者より実績報告 ①交流及び共同学習は、2学期に1回、3学期に3回実施できた ②ICT教育は、地域の支援学級担当対象の研究会を実施し、本校の取り組みを廊下に展示するなどして紹介した ③ ○会長よりキャリアプランニング・マトリックスについて日々の授業に位置付けて実践していることに過分なお褒めに預かった。また小中高のつなぎをどうしていくかなど課題もいただいた。</p>

府立和泉支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 特別支援教育のセンター的機能の強化	1 地域の学校と交流及び共同学習を推進する 2 地域や関係機関の連携強化	① 新たな分掌を立ち上げ地域の学校と交流及び共同学習を推進する ② ・(地域のインクルーシブ教育の推進) 地域や関係機関との連携を強め、それぞれの立場で主体的に障がいのある児童生徒の支援を推進できるような体制づくりを進める ・(地元自治会との連携強化) とくに学校行事や生徒会活動、安全活動について地域と協働する	① ・新たな取り組みとして地元の小学校・中学校と共同学習を年内に実施する ・中学部で居住地校交流を新たに実施する ・小学校・中学校及び高等学校と学校間交流を実施する ・新たに取り組む共同学習を教育課程や個別の教育支援計画、個別の指導計画に位置付けるための検討を始める ② ・昨年度より開催している地域の教育委員会との会議をさらに発展させ「インクルーシブ教育システム推進会議」を学期に1回開催する ・地域自治会の幹事と年度当初に会合を持つ	① ・中学校との共同学習は、実施できた(◎) 小学校については、来年度に向けて検討している。(○) ・中学部での居住地校交流は実施できた(○) ・実施中の共同学習をもとに検討している。小学部は、次年度より個別の指導計画に明記する。中学部は検討している。(○) ② ・会議を学期に1回実施できた(○) ・地域の学校に相談票を活用して地域支援を実施した(○) ・学校行事に参加して下さった。ポスターを地元の掲示板に掲示していただいた。中学校校区の活動に参加し交流した。(○)
2 障がいや発達状況に応じた教育の充実	1 教員の専門性および授業力の向上	① 関係機関や進路先との連携をふまえ、生徒の実態、目標の共通理解がよりしやすいように個別の教育支援計画を見直す ② 外部専門家による巡回相談を実施し、自閉症スペクトラムなど児童生徒の障がい特性を考慮した教育実践を進める ③ 生徒の実態や特性を個別の教育支援計画に反映させるためアセスメントを実施し、積極的に活用する ④ 授業アンケートや公開授業を実施し、教員の授業力アップを図る ⑤ ICTを活用した授業ができるよう、実践を通じた研修を行う	① 個別の教育支援計画を年3回、学部ごとに検討し書式の変更をする ② 年6回実施する ③ 新たに S-M 社会生活検査を中学部全生徒、保護者に行う ④ 学校教育自己診断の障がい理解で肯定意見8割を達成する学校評価自己診断の結果をHPにアップするだけでなく、全保護者へプリント配布し、広く意見を募る ⑤ ICTを活用した公開授業を年2回実施	① 個別の教育支援計画を全校統一様式に改定し、連携・引継ぎを強化した。それを受けて個別の指導計画について、各学部で見直しをする(○) ② 年6回実施した。(○) ③ 生徒の理解に有効であり、次年度も実施予定(○) ④ 実施できた(○) ⑤ 公開授業を2回実施した。地域のICTなら和泉支援という認識も上がってきており、地域の研究会の依頼を受け支援学級担任の研修も実施した。(◎)
3 生きる力の育成	1 卒業後を見据え、個々の児童生徒に合わせた進路指導を充実 2 児童・生徒の自尊意識の向上	① 進路指導部が中心になり職場実習先、就職先の新規開拓を進め、就職希望生徒全員の就労をめざすまた、外部機関とも連携しながら定着指導を徹底する ② ・平成25年度に作成したキャリアプランニングマトリックスを活用し、小・中・高一貫したキャリア教育を充実させるまた、これらの活用についての効果検証の方法等について検討する ③ ・進路ニュースを定期的に発行し、高等支援学校等についても全保護者に配布し情報提供する ・保護者のニーズを把握しそれに応じた内容・回数施設見学会を実施する ④ 教員の進路指導の実践力の向上をはかる ⑤ 児童会活動・生徒会活動等の活性化を図り児童・生徒の自尊意識を高める	① ・年間15社新規開拓 ・就職希望者全員の就労 ・就労と能開校進学あわせて2ケタをめざす ・引き続き卒業後3年間の離職率を15%以内とする ② ・キャリアプランニングマトリックスに基づき各学部で事例検討会を学期に1回行う ・教育的効果の検証方法等について検討チームを発足し月1回の協議を行う ・中学部・高等部の進路希望の実現100% ③ ・進路ニュースを学期に1回発行する ・進路先見学会を夏季休業中に1回実施する ④ ・進路指導部による校内進路研修を開催(年2回) ⑤ ・学校周辺の清掃作業を月1回以上実施 ・朝のあいさつ運動を高等部自力生が中心になって学期に1回以上行う ・本校キャラクターを学校行事のチラシなどに活用し、本校児童生徒の一体感の育成を図り、本校イメージを地域に発信する	① ・新たに私学を開拓できた(◎) ・就職希望者全員の就労達成できた(○) ・離職率も15%以内で推移している(○) ② ・実施できた(○) ・検討チームを発足したが、学期に1回にとどまった(△) ・中高ともに進路希望は、100%達成できた(○) ③ ・保護者アンケートの結果も踏まえ小学部、中学部の内容を見直した(○) ・実施したが希望者が多く、追加の日を設けた(◎) ④ ・中学部保護者向け進路研修会に高等部卒業後のことを加えた。 ⑤ ・清掃作業は、継続できた(○) ・あいさつ運動は生徒会役員、学級委員が中心となって行った。生徒会役員が中心となって行うという意識が定着してきた(○) ・キャラクターを使って実施しているが、地域への浸透とまではいかなかった(△)
4 安全安心な学校づくりの推進	1 防犯・防災への備えを推進する 2 健康教育を推進する 3 個人情報保護の取組を徹底する	① 警察の協力を得て、教職員対象の実践的防犯訓練を実施する ② 教職員による行方不明対応の訓練の実施 ③ 教職員、PTAによる施設安全点検を定期的に行い、迅速に対応する ④ より実際に即した避難訓練を実施する ⑤ ・健康教育の内容の充実を図るため、保健だよりや食育ニュースを定期発行する ・児童・生徒の健康状況等を把握する ⑥ ・教職員対象の個人情報保護の研修を実施する ・各種規定・マニュアルの見直しを社会状況を反映したものにするため毎年行う	① 年1回実施 ② 年1回実施 ③ 学期に1度の点検を実施 ④ 新たに避難訓練のうち1回は、事前告知なしで行う ⑤ ・月1回の発行 ・健康チェック表に基づき児童生徒教員の様子を毎日管理職に報告させる ⑥ ・年3回実施する ・保護規定等を検証し見直す ・持ち出す際の規定の作成 ・バス乗車名簿を見直し、1学期から実施	① 警察からもお褒めの言葉をいただいた(◎) ② 継続して実施し反省点を次年度に活かすことにより本部と職員の有機的な連携が練り上げられてきた(○) ③ 定期的に実施しているが根本的な施設の老朽化や不足に対応することが必要である(△) ④ 避難路を今年度変更したがスムーズに避難できた。そのため、事前告知なしの訓練は実施できなかった(△) ⑤ ・保健だより、食育ニュースを定期的に発行した。また、学校医の先生方の時節に応じたコメントも掲載した(○) ・管理表も毎日提出できた(○) ⑥ ・年3回実施できた(○) ・保護規定の見直しを行った(○) ・持ち出す際の管理簿を作成した(○) ・1学期に速やかに変更した(○)